

論文種類は先頭ページのみに記載します。  
誌名・号数・ページ数・発行年月日は本会が記入します。

(1行あけ)

## 赤外線学会誌原稿の書き方 (英文論文では日本語タイトルは不要です)

### Preparation for the manuscript of JSIR

(1行あけ)

萩行正憲<sup>1</sup>, 石田明広<sup>2</sup>

<sup>1</sup>大阪大学 超伝導フォトンクス研究センター

<sup>2</sup>静岡大学工学部 電気・電子工学科

(1行あけ)

Masanori HANGYO<sup>1</sup> and Akihiro ISHIDA<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Research Center for Superconductor Photonics, Osaka University

<sup>2</sup>Electrical and Electronic Engineering, Faculty of Engineering, Shizuoka University

(1行あけ)

**要旨:** 日本語の要旨は **300 字程度** でお書き下さい。英語論文の場合には日本語の要旨は不要です。  
以下の英語の要旨は必ずお書き下さい。

(1行あけ)

**Abstract:** Write down the abstract of your article in English. The length of the abstract should be **within approximately 150 words**.

(1行あけ)

**Key Words:** nanotechnology, materials, infrared sensors, infrared lasers, photonic crystals, terahertz, time-domain spectroscopy

(1行あけ)

#### 1. 本テンプレートについて

本ファイルは日本赤外線学会誌論文原稿の Microsoft Word 用テンプレートです。著者の方々からはカメラレディー原稿を提出して頂くことになっています。[このファイルに原稿の文章を上書きしていけば後に整形の手間が大きく省けます。](#)

本テンプレートを用いると見出しの章番号は自動でつきます。章を増やしたい場合に最も簡単な方法は他の章を見出しも含めてコピーし、新たに章を設けたい箇所にペーストします。他の章も含めて章番号は自動で更新されます。ペーストした見出し及び文章を新しい内容に書き換えます。このとき章番号は削除しないようにして下さい。

Word の「スタイル」機能を理解されている方はさらに自由に編集ができます。新たな章の見出しを設けたい場合は(章番号をつけずに)見出しのみを書いた後、その行のスタイルを「見出し1」にして下さい。自動で章番号がつき、またフォント及び文字も大きさも設定されます。

ちなみにこの論文の本文は「論文本文」というスタイルで書かれています。その他、各部分に対応したスタイルを定義しております。各部分で使うべきスタイルはスタイル名を見れば分かるようになっています。

っています。

(一行あけ(章・章間))

#### 2. 書式の全般的な注意事項

##### 2.1 フォント

本文中でのフォントは全角文字は「MS 明朝」を、半角文字は「Times New Roman」あるいは「Symbol」を使用して下さい。見出しは全角及び半角とも「MS ゴシック」として下さい。その他は各パートの指定に従って下さい。

##### 2.2 句読点

句点及び読点はそれぞれ「。」及び「,」（いずれも全角）を使用して下さい。

##### 2.3 参考文献の引用番号

文中で参考文献を引用する場合、引用番号は半角・上付で<sup>1)</sup>のようにお書き下さい。参考文献番号が文末にくる場合はこのようにお書き下さい<sup>2-5)</sup>。

##### 2.4 数値と単位

数値を単位付きで示す場合、数値及び単位とも半角文字を用いて下さい。そして数値と単位の間には半角スペースを入れて下さい。

例：123 km

123km , 123 k m や 1 2 3 km にならないようにして下さい。

(一行あけ (章・章間))

### 3. 数式と図表

以下では数式，図及び表の形式について述べます。

#### 3.1 数式

数式は以下のように数式番号をつけて下さい。

$$h\nu = g\mu_B H \quad (1)$$

数式の上下は上記のようにそれぞれ1行あけて下さい。数式行の「スタイル」を「数式」にすれば適切に設定されます。

#### 3.2 図

図は基本的に各段の上あるいは下につめて配置して下さい。ただし本文と図の間は1行程度あけて下さい。図の下に図番号「Fig. 1」及び説明を書いて下さい。これらの**キャプションは英語**でお書き下さい。文中で図を引用するときは「Fig. 1」と記述して下さい。

**カラー印刷を希望されない場合には図はグレースケール**で作図して下さい。カラー印刷を希望される場合にはカラーの図を掲載して頂いて結構ですが、どのページをカラー印刷にするか投稿時に指定をお願い致します。

**写真は図**として掲載して下さい。

図が勝手に動くのを防ぐため、「図の書式設定」で「レイアウト」タブから「詳細設定」「配置」タブの**「文字列と一緒に移動する」のチェックをオフ**して下さい。

#### 3.3 表

表も図と同様に各段の上あるいは下につめて配置して下さい。キャプションは表の上にお書き下さい。表番号は「Table 1」の形式でお書き下さい。

Table 1 Parameters obtained by the curve fits.

<i>a</i>	<i>b</i>	<i>c</i>	<i>d</i>
1.23	4.56	7.89	0.12

(一行あけ)

### 4. 最後に

緑色の文字のコメントは削除して下さい。

本ファイルは Microsoft Word 2000 Service Pack 3 を用いて作成致しました。バージョンの違いによる不具合などがございましたら [nagasima@ile.osaka-u.ac.jp](mailto:nagasima@ile.osaka-u.ac.jp) までご連絡を頂ければ幸いです。

(一行あけ)

#### 参考文献

- 1) 金藤敬一：カーボンナノチューブ 田中一義編 (化学同人, 2001) p.129.
- 2) D. Bimberg *et al.* : Jpn. J. Appl. Phys. **35** (1996) 1311.
- 3) 栖原敬明：半導体レーザーの基礎 (共立出版, 1998).
- 4) C. Gmachl, F. Capasso, D. L. Sivco and A. Y. Cho : Rep. Prog. Phys. **64** (2001) 1533.

(論文受付 200\*年\*月\*日、論文受理 200\*年\*月\*日)

(一行あけ 論文受付, 受理日は本会が記入します)

#### 著者紹介

(一行あけ 行間固定値 12 pt)

氏名 萩行 正憲

所属 大阪大学超伝導フォトンクス研究センター (〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1)

1976年, 京都大学理学部卒業. 1981年, 同大学院理学研究科物理学第一専攻修了, . . . **写真の大きさは横 30 mm, 縦 40 mm 程度**にして下さい. . . . . 光励起テラヘルツ波放射の研究に従事. . . . . 2006年, 大阪大学超伝導フォトンクス研究センター教授, 現在に至る.

所属学会: 日本赤外線学会, 応用物理学会, 日本物理学会, 電気学会

E-mail : hangyo@rcsuper.osaka-u.ac.jp

(各著者間是一行あけ 以下は英文論文のスタイル)

Toshitaka Idehara

(一行あけ 行間固定値 10 pt)

Born in 1940

Educational background:

1963 B. Sci. Kyoto Univ., Faculty of Science, 1965 M. Sci. Kyoto Univ., Faculty of Science, 1968 D. Sci. Kyoto Univ., Faculty of Science

Professional experience:

1968-1970 Tutor, Fukui Univ., Faculty of Eng., . . . . . 1999- Professor, Fukui Univ., Research Center for Development of Far-Infrared Region

Research background:

Development and applications of high frequency gyrotrons

Phys. Soc. Jpn., Jpn. Soc. Appl. Phys., Jpn. Soc. Plasma Sci. and Nucl. Fusion Res., Institute of Electrical Eng. Jpn., Jpn. Soc. Infrared Sci. and Tech., American Phys. Soc.

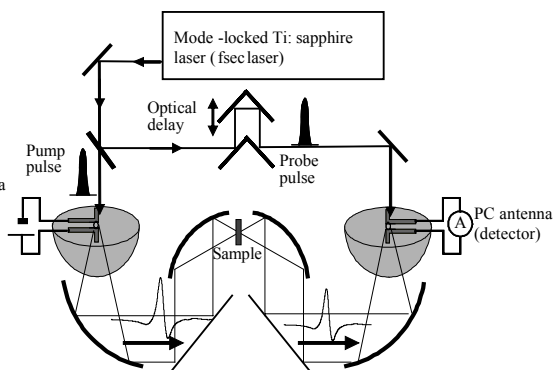
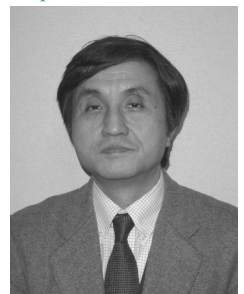


Fig. 1 Schematic diagram of the THz-TDS system.